

「認知症の人も家族も安心して暮らせるための要望書（2019年版）」

〈2〉
（全11回）

介護保険制度の2021年度改定に向けた議論が、社会保障審議会介護保険部会で始まりました。それに先立って開かれた財政制度等審議会では、「これまでの『利用制限・負担増』は生ぬるい点があった。不転の決意でさらに推し進めるべき」との意見も出されています。そこには、困難な生活を強いられる利用者・家族の影すら見受けられません。若者への社会保障の重視が唱えられていますが、両親や祖父母に対する社会保障をないがしろにする社会に、明るい未来を描けるはずがありません。

利用者・家族の声で、〈利用制限・負担増〉の流れを押し戻そう！

まず、次期改定にあたってポイントとなる事項についての解説です。

Ⅲ. 介護保険制度をはじめとする制度・諸施策についての要望（2）

1. 介護保険制度について
- 2) 次期（2021年度）改定に向けて
 - (1) 利用料一律2割負担への引き上げを行わないこと

家族



2割負担になり、夫の年金全てが施設利用料でなくなり、私の年金も保険料などの支払いで消えてしまう。

今は、1割負担だが2割になったら、シ

ョートを半分に、ヘルパーも削らなければならぬ。

夫婦の年金合わせて13万円、利用料が13万円。いつまで特養に入所させておけるか。

*現状でも2割負担により、これだけ生活への影響が出ています。現在2割負担の人よりさらに経済的に厳しい全ての利用者に適用されたら、と考ただけでも恐ろしくなります。一律2割負担は絶対に認められません。

- (2) 要介護2までの介護サービスを介護予防日常生活支援総合事業に移行しないこと

* 「総合事業」の受け皿の整備が、思惑通りに進

んでいないことは、国自身が認めています。認知症において、特に大切な要介護2までの支援をそのような事業に委ねることはできません。

- (3) 訪問介護の生活援助、福祉用具貸与、住宅改修を全額自己負担にしないこと

*生活援助が初期の認知症の人の支援に不可欠であることは、「家族の会」の調査でも明らかになっています。福祉用具貸与や住宅改修の軽視も認めることはできません。

- (4) 居宅介護支援に自己負担を導入しないこと

*ケアマネジャーの報酬には、自己負担はない形が既に制度として定着しています。また、制度はますます複雑になり、自己負担を避けるために、利用者がケアマネジャーの代わりにするのは無理なことです。サービスを限度まで利用している人は、サービスを減らさざるを得ないこととなります。自己負担導入は行うべきではありません。

次からは、個々のサービスに関する要望についての解説です。

3) 個々の介護サービス等について

(1) 訪問介護について (①、④は省略)

②生活援助中心の支援も、同居家族の有無や要介護度を問わず認めること

家族



家族が家に居てもヘルパーに来てもらいたい。

ヘルパーが仕事するのに十分な時間を確保してほしい。

***同居家族がいると利用できないのは、介護の社会化を目指す介護保険制度の趣旨と全く矛盾するもので、認められません**

③従来からの滞在型の訪問を強化するために予算を投入し報酬を引き上げること

***鳴り物入りで導入された24時間随時対応型介護は、あまり広がっていません。誰もが、必要な時、必要な分だけ使えるよう従来の滞在型の訪問介護を強化し、いろいろな場合への対応力を高めていく必要性を訴えるものです。**

(2) 通所介護について (①は省略)

②すべての通所介護事業所において認知症の利用者への対応力の向上を図ること

家族



認知症だからか、子ども扱いの言葉かけであったり、職員の数が少ないからか、利用者の自由がなく室内にこもらせてい

ることがある。

本人の職歴や趣味、できることを重視したデイサービスがない。

***一般の通所介護を多くの認知症の人が利用されています。代わりの職員の補充など、全ての職員が認知症介護基礎研修を受講できるよう公的な支援が必要です。**

(3) 認知症対応型デイサービスについて

幅広い認知症ケアのニーズに対応できるよう、職員配置の強化や対応力の向上を図り、小規模でも事業の継続ができるように、支給限度額を超えた分も介護給付の対象とすること

家族



介護が大変なので、ケアの内容よりも、利用料が低く、回数多く利用できる一般の通所介護を選んでしまう。

事業所



利用回数を多くできるように、一日の利用時間を短くするなどの工夫をしているが、限度がある。ケアの中身で選んでももらえないのが残念。

***せっかく、充実した認知症ケアが受けられるよう設けられた認知症デイが、経済的な理由で選ばれず、運営的にも厳しいのは制度のひずみです。あまり差のない負担で同じ日数を利用できるよう知恵を絞った結果の要望です。**

(4) 小規模多機能型居宅介護について

利用者の利便性と安定的な運営のために、介護報酬の引き上げ、通い、泊り、訪問の弾力的な運用等、必要な措置を継続的に講ずること

家族



小規模多機能型もこれまでのケアマネジャーで利用できるようにしてほしい。

***臨機応変に対応できるよう施設内ケアマネジャー制となっていますが、利用者には選択できる余地を設けるべきだと考えます。**

(5) 居宅介護支援(介護支援専門員)について (解説は省略)

●ご意見、ご質問、お困りのことなどをお寄せください。

「家族の会」介護保険・社会保障専門委員会宛
FAX 075-811-8188 Eメール office@alzheimers.or.jp

本人登場
私らしく仲間とともに
No.164



なみ き かず ひさ
並木 和久さん

72歳・神奈川県支部

並木さんは現在、妻と長男の3人暮らしで、家族は就労中で昼間は一人です。娘さんは結婚し、3人のお孫さんがいます。じっとしていることがいやで、行きたい場所を見つけると、綿密な地図を書いてどこへでも自転車で出かけます。

神奈川県支部の田村加代子さんが、聞き書きしてくださいました。（編集委員 松本 律子）

何だかおかしいと思い始めたのは…

50歳ころに何かおかしいと覚えることがあった。60歳前には物覚えが悪くなり、記録が思い通りに書けなくなり、人の名前や顔が覚えにくくなった。仕事の失敗や、おかしいと指摘されたことはなかったが、60歳で退職し、第二の職場で65歳まで働いた。建設会社に事務で入った。港湾関係の会社だったと思うが、詳しくは思い出せない。

はじめは自転車で神社めぐり

日中は一人だが、何もしないでぶらぶらしてられず、県内の神社を回ってみることにした。インターネットで細かい地図を書き、それを持参し、あちこちの神社を巡った。行った所はきちんとメモしている。県内はほぼ巡り終えた。月初めは、横浜市役所や各区役所の情報チラシを点検し、無料で聴ける演奏会を捜し、土・日に行くようにしている。吹奏楽が多いかな！また、92歳の実母が市内のホームに入所しているので、母の見舞

いにも行く。もちろん、どこに行くのも自転車。出かける時は、メールを見たり、日記を書

いたり、働く妻の家事の手伝いもする。食事を作ってくれる妻には感謝している。

何かやりたい

「何かやりたい、自分の暇な時間をつぶすために！」。今はシルバー人材センターの依頼で、自宅近くの430世帯に、市の広報誌のポスティングを月1回。近所の人に頼まれて、障害者の食事介助を夕方6時半から週1回している。支部の本人の会「やまゆりの会」の常連メンバーで、昨年度は、横須賀の軍艦三笠の見学や上大岡のボウリング、江の島散策、川崎大師他、年5回みんなで行った。毎月の支部主催の認知症カフェ「琥珀カフェ」や「若年性認知症のつどい」にも参加している。

何が楽しみって…?

脳の萎縮が進んで、字が分からなくなった気がする。パソコンで漢字を調べて日記に書く。普通の生活ができなくなるのが怖い！時々、肩が痛くなるのも心配！

人と話していても、言葉の意味や地名が理解できなくなって、だんだん話さなくなった。前は飲み仲間のグループが3つあって、自分で声を掛けて集まっていたが、このごろは連絡をとらない。

主体的に自分のことができれば楽しい。



琥珀カフェでランチの準備



本人交流の場

(詳細は各支部まで)

- 山形●7月17日(木)13:30~15:30 / 「なのはな」→篠田総合病院
- 埼玉●7月27日(土)11:00~14:30 / 若年のつどい・越谷→中央市民会館
- 神奈川●7月15日(月・祝)10:00~12:00

- ／若年のつどい→二俣川地域ケアプラザ
- 静岡●7月9日(火)10:00~13:00 / 若年性のつどい→富士市フィナンセ西館
- 三重●7月21日(日)13:30~15:30 / 若年のつどい→四日市総合会館
- 京都●7月21日(日)13:30~15:30 / 若年のつどい→京都社会福祉会館
- 奈良●7月27日(土)13:00~15:30 / 本人のつどい→奈良市南福祉センター

- 鳥取●7月24日(火)11:00~15:00 / 中部にっこりの会→倉吉市鳥の社
- 岡山●7月27日(土)13:00~15:00 / ひまわりの会→くらしき健康福祉プラザ
- 愛媛●7月26日(金)13:00~15:00 / 若年性つどい→愛媛県看護研修センター
- 長崎●7月9日(火)13:30~15:30 / 若年のつどい→させぼ市民活動交流プラザ

会員さんからの お便り

このコーナーに寄せられたお便りの他、入会申込書、「会員の声」はがき、支部会報から選び掲載しています。



お便りお待ちしております！

〒602-8143 京都市上京区猪熊通丸太町下ル
仲之町519番地 京都社会福祉会館内
〈「家族の会」編集委員会宛〉

FAX.075-811-8188

Eメール office@alzheim.or.jp

悩んでいるご家族に良い知恵があればお寄せください。

ぼ〜れぼ〜れ4月号
「支部だよりにみる介護体験」を読んで

『ぼ〜れぼ〜れ』から勇気の一步

●秋田県 Aさん 80歳代 男性

家内はアルツハイマー型認知症で、要介護5。失明、両足骨折、障がい者1種1級。24時間介護は14年。ついに私自身が倒れてしまい、平成29年12月に特養に入居することになりました。

このたびは、『ぼ〜れぼ〜れ』4月号、支部だよりにみる滋賀県の田辺さんの記事を拝見し、あまりにも家内の特色と合致し、納得できました。特に意味性認知症という名称を始めて知り、驚き、それに2015年7月に難病に指定されたことなど、知りませんでした。

認知症は、人それぞれいろんなタイプがあるかと思います。家内の場合は当初、暴力的なこともあって、寝ていて首を絞められたりし、眠れない日もありましたが、その都度「家族の会」の援助をいただき、感謝で一杯です。もう過去のこととはいえ、悩まれている方々に『ぼ〜れぼ〜れ』から勇気の一步をいただけることを信じています。

情けなさで心が空っぽ

●岡山県 Bさん 50歳代 女性

87歳の母とふたり暮らしです。平成27年に嗜銀顆粒性認知症と診断されています。信頼できる医師のもと、状態は安定していましたが、昨年の西日本豪雨により、自宅2階まで水に浸かり、全壊。現在は、みなし住宅に住み、母は自宅が再建されて、戻れることだけが生きがいです。

母はショックと環境の変化に戸惑い、認知症が進み、怒りっぽくなりました。私も気持ちの余裕がなく、母に対して鬼の形相で怒ることが多く、母は増々混乱しています。本当にひどいことをしているとわかりながら、自分をコントロールすることができません。

介護職を15年以上し、資格も持ちながら、職場のデイサービスでは利用者さまの話に耳を傾け、笑顔で接することができるのに…。家に帰れば、母にひどい対応をしてしまい、情けなさで心が空っぽになります。

今までわからなかった家族介護者の気持ちが初めてわかりました。される方も、する方も、お互い悲しいということ。母が私の仕事のお手本です。

気持ちのコントロールが難しい時は、姉たちに本音をぶつけ、助けてもらっています。



「NHK 介護百人一首」に感動

●新潟県 Cさん 80歳代 男性

「オムツ替え もの言えぬ人の 慟哭は
眉間の丘の 小さな動きに」

「NHK介護百人一首」で、男性介護士の作品に感動しました。私の家内も認知症の末期で同じ状態での今、会話、食事、不能。目もたまに開けても、視線は私とは繋がりません。15年間、本当に言葉に出せない、いろいろの修羅場でした。特に初期の混乱時代は、ただどうしてなの？何でできない？の毎日でした。

介護認定を受けて何よりも助かったのは、親身に相談を受けてくれるケアマネに出会えたこと。家内がこうだと相談すれば、奥さまの気持ちはこうなんですよと教えてくれました。

「家族の会」の存在を知り、始めて参加した時は、他の介護者からの徘徊、暴力、暴言などの言葉に衝撃を受けました。家内は徘徊もない、一人が怖くて私の後ろに何時もいました。暴言もなく、私が逆に暴言でいさめたこともありました。私よりも大変な介護者の言葉で、「私の介護はまだ比べれば軽いんだ

な」と思われました。

少しながら介護の対応ができ始めたのは、数年過ぎてからでした。何よりも家内がかわいそうでした。失禁の後始末をしている時に、家内が泣きながら言った「お父さんかわいそう」との言葉を聞いた時は、私も泣きました。歩行困難になり、もう限界と悟った時には、特養に運良く入居できました。

それからは毎日の面会を欠かさず、誤飲で医師がCTを見ながら、「もう末期で延命しかできない、いざと言う時は覚悟を」と言われました。私は「延命でなく、救命してほしい」と反抗的な言葉で医師にお願いしましたが、取り上げてくれませんでした。しかし、それからもう一年半経ち、経鼻栄養でも私の毎日の呼びかけや刺激に、私にだけ判る僅かな表情の変化で応え、手を握れば握り返してくれ、お互いの額をつけ合うと首を振ってくれます。認知症は、医療より介護の仕方でも命永らえらるとつくづく思いました。

冒頭の介護士の短歌は、相手の僅かな表情まで見つめる様子が伝わってきます。私は15年間、介護してきたから判るけど、この方に介護を受けておられる被介護者は幸せです。

認知症初期集中支援チームの協力で

●東京都 Dさん 50歳代 女性

父が母の介護をしています。平成30年6月、認知症初期集中支援チームの協力を得て、やっと受診できる状態となり、毎月なんとかか受診させています。最近父への暴言・暴力が出たり、病院へ到着したあと、受診を拒否し、大声を出し、病院から出て行ってしまったり、父も苦労しています。カバン、財布もよくなり、近所の人が盗ったと大声で言うこともあります。父が仕事で不在の時は、カメラで母の様子を見て確認し、何かあれば父へ連絡をするなどで対応しています。今後は、心のケアをと思い、「家族の会」のことを知り、入会しました。

こだわりが強く

●山口県 Eさん 60歳代 女性

主人は、前頭側頭型認知症と診断されて2年が経ちました。時間通り生活しなくてはいけない、こだわりが強い。公園のトイレで、女子トイレに入る。夜中も外のトイレ（公園）に出かける。外出時、付き添うのですが、ひとりで行こうとする。

今は一日、何事もなく終わると安堵しています。「家族の会」に出席させていただき、支えられ、感謝しています。

※お名前はイニシャルではありません。
年齢は「50歳代」等で表記しています。